

**通信学習（通信時間数）1級****通信時間****総時間**

		通信時間	総時間
1	生活支援の理念と介護における尊厳の理解	15 時間	30 時間
2	介護における社会福祉援助技術		
3	医療・看護を提供する者との連携	15 時間	30 時間

**【 研修のカリキュラム＜講義と演習＞ 】****1 生活支援の理念と介護における尊厳の理解（15時間）****人間理解と尊厳（3時間うち通信1時間）**

人間のライフサイクルとライフステージについて、生物学的な側面に限定して考察する。

「生活援助に伴う介護にとっての重要性について説明する。

**生活の考え方（2時間うち通信1時間）**

生活を支援する重要性等について説明し、生活支援の基本を理解させる。

看護、介護分野の関係性を踏まえながら介護職員に求められる資質について説明する。

**福祉の支援の考え方（3時間うち通信2時間）**

介護に対する歴史や考え方の変遷を理解し家族介護から社会介護への実際を解説し、社会介護への実際の在り方について考察する。

QOLがなぜ社会から要請されたかを解説し、必要性を考える

ノーマライゼーションの理念・意義内容の解説し福祉理念の関連についても解説をする。

**介護の基本的な視点と意義（4時間うち通信1時間）**

ケアサービスの特徴・意義を解説し考察する

## 2 介護における社会福祉援助技術 1 5 時間)

### 介護におけるソーシャルワークの基本的理解 ( 2 時間うち通信 1 時間)

ケースワークが展開される場所・場面について解説し、ケースワークにおける援助関係の重要性などについて考察する。

グループワークが適用される場、定義を解説し、具体的な事例を通し、留意点やコミュニケーションスキルについて考察する。

### 介護における相談援助技術の習得 ( 3 時間うち通信 2 時間)

介護員が行う相談援助について解説する

家族を支援する際のポイントを解説する。

### 地域に根ざした包括的ケアの必要性 ( 2 時間うち通信 1 時間)

コミュニティーワークの知識をさらに深める為、地域アセスメントの視点コミュニティーワークの必要性を考察する。

これまで暮らしてきた地域や自宅での生活の維持していく為の支援・サポートの具体的な方法について考察する。

### 困難事例に対する援助活動の展開 ( 6 時間のうち 2 時間)

サービスを拒否するクライアントへの働きかけについて解説し、クライアントの抵抗認識を認識する方法、抵抗しなくてすむ方法を考察する。

「無力」に陥っているクライアントへの働きかけについて解説し実践のモデルを用いてクライアントの援助を考察する。

設定されて課題を遂行するあるいは解説する形式のロールプレイを行う。

### 地域生活支援の実際 ( 1 時間うち通信 1 時間)

### 虐待防止、消費者被害、権利擁護への対応 ( 1 時間うち通信 1 時間)

### 3 医療及び看護を提供する者との連携（30時間）

#### 医療・看護との連携の基礎的理解（5時間うち通信1時間）

在宅医療において医療・看護が担う役割と、医療ケアを受けている利用者へのホームヘルプサービスに必要な連携の重要性と連携方法について考える

#### 訪問看護の基礎的な理解(4時間うち通信1時間)

#### 医療機器、医療用具、薬の基礎的理解（3時間うち通信1時間）

#### 褥そう予防に関する基本的な理解（4時間うち通信3時間）

#### リハビリテーションの医学の基礎知識（4時間うち通信2時間）

#### 緊急時の対応方法（5時間うち通信3時間）

介護員が遭遇する緊急時の対応について緊急処置を中心に学ぶ

#### ターミナルケアへの対応（5時間うち通信4時間）

ターミナルケアの基本的要件について学び、利用者・家族支援を考察する。

サービス提供側として全人的苦痛を的確に判断できるように、福祉職・保健医療職およびボランティアによるチームの円滑な連携を学ぶ。医療・看護との連携の基礎的理解（8時間うち通信4時間）

在宅医療において医療・看護が担う役割と、医療ケアを受けている利用者へのホームヘルプサービスに必要な連携の重要性と連携方法について考える

## 通信学習（通信時間数）2級

## 通信時間

## 総時間

		通信時間	総時間
1	生活支援の理念と介護における尊厳の理解	15 時間	30 時間
2	介護における社会福祉援助技術		
3	医療・看護を提供する者との連携	15 時間	30 時間
4	認知症の理解	15 時間	30 時間
5	介護におけるコミュニケーションと介護技術(90 時間)	10 時間	30 時間
6	生活支援のためのアセスメントと計画	15 時間	30 時間

# 1 生活支援の理念と介護における尊厳の理解（15 時間）

### 人間理解と尊厳（3 時間うち通信 1 時間）

人間のライフサイクルとライフステージについて、生物学的な側面に限定して考察する。

「生活援助に伴う介護にとっての重要性について説明する。

### 生活の考え方（2 時間うち通信 1 時間）

生活を支援する重要性等について説明し、生活支援の基本を理解させる。

看護、介護分野の関係性を踏まえながら介護職員に求められる資質について説明する。

### 福祉の支援の考え方（3 時間うち通信 2 時間）

介護に対する歴史や考え方の変遷を理解し家族介護から社会介護への実際を解説し、社会介護への実際の在り方について考察する。

QOL がなぜ社会から要請されたかを解説し、必要性を考える

ノーマライゼーションの理念・意義内容の解説し福祉理念の関連についても解説をする。

### 介護の基本的な視点と意義（4 時間うち通信 1 時間）

ケアサービスの特徴・意義を解説し考察する

健康観、主体性・能動的生活を解説し、支援するためには何が必要かを考察する。

ICF の経緯、概要、意義について解説する

### 地域生活支援と保健・医療・福祉サービス、インフォーマルな活動等とのトータルなネットワーク (2 時間うち通信 1 時間)

### 利用者の権利と尊厳（1 時間うち通信 1 時間）

## 2 介護における社会福祉援助技術 1 5 時間)

### 介護におけるソーシャルワークの基本的理解 ( 2 時間うち通信 1 時間)

ケースワークが展開される場所・場面について解説し、ケースワークにおける援助関係の重要性などについて考察する。

グループワークが適用される場、定義を解説し、具体的な事例を通し、留意点やコミュニケーションスキルについて考察する。

### 介護における相談援助技術の習得 ( 3 時間うち通信 2 時間)

介護員が行う相談援助について解説する

家族を支援する際のポイントを解説する。

### 地域に根ざした包括的ケアの必要性 ( 2 時間うち通信 1 時間)

コミュニティーワークの知識をさらに深める為、地域アセスメントの視点コミュニティーワークの必要性を考察する。

これまで暮らしてきた地域や自宅での生活の維持していく為の支援・サポートの具体的な方法について考察する。

### 困難事例に対する援助活動の展開 ( 6 時間のうち 2 時間)

サービスを拒否するクライアントへの働きかけについて解説し、クライアントの抵抗認識を認識する方法、抵抗しなくてすむ方法を考察する。

「無力」に陥っているクライアントへの働きかけについて解説し実践のモデルを用いてクライアントの援助を考察する。

設定されて課題を遂行するあるいは解説する形式のロールプレイを行う。

### 地域生活支援の実際 ( 1 時間うち通信 1 時間)

### 虐待防止、消費者被害、権利擁護への対応 ( 1 時間うち通信 1 時間)

### 3 医療及び看護を提供する者との連携（30時間）

#### 医療・看護との連携の基礎的理解（5時間うち通信1時間）

在宅医療において医療・看護が担う役割と、医療ケアを受けている利用者へのホームヘルプサービスに必要な連携の重要性と連携方法について考える

#### 訪問看護の基礎的な理解(4時間うち通信1時間)

#### 医療機器、医療用具、薬の基礎的理解（3時間うち通信1時間）

#### 褥そう予防に関する基本的な理解（4時間うち通信3時間）

#### リハビリテーションの医学の基礎知識（4時間うち通信2時間）

#### 緊急時の対応方法（5時間うち通信3時間）

介護員が遭遇する緊急時の対応について緊急処置を中心に学ぶ

#### ターミナルケアへの対応（5時間うち通信4時間）

ターミナルケアの基本的要件について学び、利用者・家族支援を考察する。

サービス提供側として全人的苦痛を的確に判断できるように、福祉職・保健医療職およびボランティアによるチームの円滑な連携を学ぶ。

### 4 認知症の理解（30時間）

#### 認知症の医学的背景の理解（6時間うち通信3時間）

認知症の医学的背景を理解し、高齢者の特徴を解説する。

「中核症状」と「周辺症状」について解説する。

#### 認知症の心理・行動の理解（7時間うち通信3時間）

認知症を引き起こす原因疾病について解説し発生誘因や症状等について

認知症高齢者の心理的特徴について解説する

認知症高齢者を「障害」としてどうとらえるかについてとらえるかについて解説し、介護員の「障害」に対する視点について受講生の意見を出し合う。

行動障害の原因となる具体的な対応法について解説する。認知症高齢者とその介護員のあり方について考察する。

#### 認知症の利用者への支援・介護の考え方（8時間うち通信3時間）

認知症高齢者への理解と見守る介護について解説する。

バリエーションの原則、理論と実践について解説する

介護員として観察する視点について解説し規則的なリズムを整えて身体的に良好な状態を保つようなケアを考察する

独歩や杖使用で歩行可能な認知症高齢者対象とした住環境への配慮について解説する。

認知症高齢者の社会活動支援に必要な「基本姿勢」「実践」例を挙げ、介護員としての心構えを考察する。

アクティティについて解説し実技演習を取り入れる

「問題とされる行動」について解説し、認知症高齢者が何を望んでいるかを見極めるケアを考察する。

認知症介護における医療・保健・福祉・関係機関、地域資源との連携、自立支援のための地域による支え合い（４時間うち通信３時間）

各期間の役割と活用方法について解説する。

家族へのケア（５時間のうち通信３時間）

在宅認知症高齢者をかかえる家族の理解について解説する。

認知症高齢者をかかえる家族への役割を解説し、認知症の介護、ストレス対応及び住居と地域の環境について考察する。

認知症介護のサービスマネージメントを解説し、事例で演習する

## 5 介護におけるコミュニケーションと介護技術( 30時間 )

介護の考え方・視点（３時間うち通信２時間）

介護におけるコミュニケーションと信頼関係形成（６時間うち通信３時間）

利用者とコミュニケーションについて解説する

演習を用いながら他者と自己を理解することについて解説する。

信頼関係を築くための基本的姿勢について解説する

演習を交えながら面接技術を解説する

コミュニケーション手段の障害について解説する

高齢者・障害者（児）の理解と心のケア（３時間うち通信２時間）

老年期に起きる心理的变化を知り、高齢者への理解を深めるとともに、より適切に援助できることを目指す。

先天性・早期の中途障害と中途障害児について学ぶ。

基礎的介護技術の習得（１４時間うち通信１時間）

介護用品を用い、具体的場面を想定して実技の演習を行う。

- ・ 食事の介護・排泄・尿失禁の介護
- ・ 移動、歩行の介護・睡眠、夜間の介護
- ・ 入浴・清潔の介護・衣服の着脱の介護

介護予防の考え方と方法（２時間うち１時間通信）

介護予防がなぜ重要視されるようになったのか、介護予防をどのように実施していくかを理解するとともに

に介護予防ケアプランについて学ぶ。

福祉用具の活用と住宅改修による自立支援（2時間うち通信1時間）

## 6 生活支援のためのアセスメントと計画（30時間）

生活プランの考え方（6時間うち通信3時間）

専門性の高い介護のサービスの提供を実現していく為に、「生活」支援の観点からケアプラン、アセスメントについて解説する。

居宅介護について具体的な事例を通じてケアマネジメントと介護保険制度のあり方と施設のケアプランについて解説し具体的サービスの概要と運営基準について考察する

ケアプラン・サービス計画の各プロセスのシュミレーションとその妥当性について小グループによる検討を行う

ケアプランとサービス計画の内容・機能（6時間うち通信3時間）

ケアプランとサービス計画の作成手順（6時間うち通信3時間）

ケアプラン・サービス計画とサービス提供の実際（7時間うち通信3時間）

地域生活支援のための地域環境のアセスメント技術と留意点（5時間うち通信3時間）

専門性高い介護サービスの提供を実現する為「生活」支援の観点からケアプラン、アセスメントの考え方を説明する。

